



綴プロジェクト作品 山水図襖

長谷川等伯筆 寄贈先：高台寺 塔頭 圓徳院 原本所蔵：高台寺 塔頭 圓徳院

## 等伯の逸話が残る、山水図の傑作。

長谷川等伯が円熟期を迎える、五十歳の時に描いたとされる三十二面の襖絵。山水図襖は、桐模様が施された唐紙の上に、水墨で山水画を描いた貴重な作品である。等伯は、独自の感性で、この桐模様を牡丹雪と見立て、冬景色を描いた。桐模様だけの襖絵は、雄大な冬景色へと広がり、見る人を惹きつける傑作へと生まれ変わった。

もとは、大徳寺・三玄院にあり、後に現在の高台寺・圓徳院に移った「山水図襖」。当時、襖絵を描きたいとの依頼を三玄院の和尚に断られていた等伯は、和尚が留守の時に訪れて、周囲の制止も聞かずに一気に描き上げてしまったという逸話が残っています。綴プロジェクトは、高精細複製品を制作し、圓徳院に寄贈。客人を迎える部屋に設えて、一般公開を可能にしました。狩野派と並ぶ絵師と称される等伯。「山水図襖」を描き上げたときの逸話は、その美しさとともに、後世へと伝えられていくことでしょう。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。

海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品35作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト  
でご覧いただけます。  
[global.canon/ja/tsuzuri](http://global.canon/ja/tsuzuri)

### 公開情報

綴プロジェクト作品・山水図襖は圓徳院にて公開されています。

Canon